

東北紀行

Tohoku Travelogue

第 16 号 / 2017 年 1 月 / 編集：丸岡泰（石巻専修大学）

災害復興民間活動国際フォーラム

石巻専修大学 丸岡 泰

去る 12 月 12 日、「災害復興民間活動国際フォーラム」が石巻専修大学（宮城県石巻市）で開催されました。台湾の 11 名を含め約 40 名が集まりました。この企画は石巻市内観光関連団体の連絡会「石巻ビジターズ産業ネットワーク」から東北支部が引き継ぎ、台湾の慈善団体「新故郷文教基金会」とともに主催を務めました（次頁概要）。

これは旅行業界で MICE と呼ばれるイベントの一つで、伸びつつあるインバウンドを誘致し、今後、東日本大震災の被災地への復興ツーリズムとするための試みです。

台湾から日本へのインバウンドはこれから成長が見込める市場です。日本着のインバウンド市場の中で東北が占める割合はまだ小さなものですが、フォーラムとその前後の視察を通じて、台湾の皆さんが関心を持てるものが東北の被災地にあることを確認できたと感じています。

私は主催者あいさつの他、「日本における災害ボランティアの変容と課題」と題する基調講演を行いました。明治以降の日本の大災害における災害ボランティア活動にかかわった組織の特徴を整理しました。まだボランティアという言葉が日本人の間で使用されていなかった頃からの救護や支援の活動組織の存在と、歴史的視点からの東日本大震災後のボランティア活動の特徴を報告しました。

他に、全体会と 3 つの分科会において日本と台湾の実務家と研究者が研究と事例の発表を行いました。日本と台湾の災害を事例として、災害からの復興における民間活動について、参加者の間で情報交換が行われました。個人的には、台湾の少数民族が災害後、独自の文化を観光資源として生かしているという事例報告に興味を持ちました。

これに先立つ 12 月 11 日には、石巻市内復興まちづくり情報交流館などの視察が行われました。また、12 日のフォーラム直前には仮設住宅の視察が、フォーラム後には交流懇親会が行われました。13 日には復興住宅、野菜工場の実験的試みを進める株式会社デ・リーフデ北上、道の駅「上品の郷」などの視察が行われました。

被災地の状況を理解してもらえたとともに、復興という課題に取り組むうえで台湾と共有できる視点があることも確認しましたし、言葉が通じなくても楽しめることもわかりました。意義ある企画だったと考えています。

これを東北の復興に役立てるには、今後、この機会に生まれた縁を大切にすることが必要だと思います。

ご挨拶

東北公益文科大学 山口 泰史

本学が 2013 年に、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」の採択を受けたため、その運営スタッフ（特任講師）として、2014 年 4 月から（株）フィデア総合研究所（山形市）より出向しています。実は、私の専門は観光学ではないのですが（人文地理学）、地方の中小シンクタンクは中央の大手シンクタンクのように研究部署が細分化されていないため、研究所では良くも悪くも「何でも屋」として、さまざまな分野の調査研究を行ってきました。7～8 年前、たまたま観光関係の調査研究を複数手掛けていた時に、縁あって本会に入会させていただきました。

観光の調査研究で最も印象に残っているのが、2011 年度に国土交通省東北運輸局の委託で実施した「酒田エリアにおける外国人旅行者の移動容易化のための言語バリアフリー化事業」です。何とも長い名称ですが、簡単に言えば、酒田に来た外国人がスムーズに移動できるための多言語化を図る事業です。東日本大震災で全国的に落ち込んだ外国人旅行者を取り戻すための施策で、同事業は酒田を含め東北 4 カ所、全国 26 カ所で行われました。

紙面の都合上、1 つだけ事業例を紹介しますと、留学生モニターによる現地調査で「庄内空港からリムジンバスに乗って酒田に行く方法が分からない」という指摘を受けて、空港内に多言語（英中韓）のアナウンス機器とデジタルサイネージを設置しました。また、空港のバス乗り場には、乗降方法や料金の払い方などをイラスト表記した多言語看板を設置しました。さらに、リムジンバスの車内放送も多言語化しました。これらは、庄内空港ビル（株）や ANA、庄内交通などの協力を得て実現したものです。

あれから 5 年。2011 年に 600 万人台だった訪日外国人旅行者は、2013 年に 1,000 万人、昨年（2016 年）は 2,000 万人を越えました（日本政府観光局調べ）。庄内空港に降り立つ外国人旅行者はまだ少ないですが、今後のインバウンド振興に向けた「先行投資」になればと願っています。

◇12月11日

石巻市内視察…日和山、復興まちづくり情報交流館他

◇12月12日

9:15~仮設南境第5団地視察

10:00~フォーラム全体会(森口記念館) 通訳:可淑珍

<主題>「災害復興と民間活動」

<会場>石巻専修大学森口記念館、4101教室、4201教室

司会:劉忠達<石巻専修大学>

主催者あいさつ:丸岡泰<東北支部長>

歓迎あいさつ:尾池守<石巻専修大学学長>

基調講演 通訳:可淑珍

(1)日本における災害ボランティアの変容と課題

／丸岡泰<日・石巻専修大学>

(2)従社區總體營造到社群跨域治理/埔里生態城鎮轉型案例分析(仮訳:コミュニティ総体造営からクロス・コミュニティ・

ガバナンスへ/埔里生態都市轉換のケーススタディ)

／廖嘉展<台・新故郷文教基金會>

／江大樹<台・國立暨南國際大學>

／張力亞<台・國立暨南國際大學>

(3)従震災社區重建到城市社區治理—不同類型 NGO の角色轉型和公共參與(仮訳:コミュニティ復興から都市コミュニティ

ガバナンスへ/異なる NGO の役割轉換と公衆参加)

／盧思岳<台・台灣社區重建協會>

12:00~昼食休憩(学生食堂)

13:00~分科会

第1分科会(森口記念館)「災害・防災」事例発表

通訳 黄家琦

(1)NPOによる災害対応

／中川政治<日・公益社団法人みらいサポート石巻>

(2)台南市 0206 震災重建の因應機制建構的現況—民間、大學、公部門可能的連結協調機制

／陳世明<台・成功大學>／姚昭智<台・成功大學>

／盧紀邦<台・成功大學>／戴華<台・成功大學>

(3)危険性が高い高層集合住宅の判明及び建物劣化状況に関する自主検診システム

／姚昭智<台・成功大學>／陳震宇<台・成功大學>

／黄肇新<台・長榮大學>

第2分科会(4101教室)「復興・復興」

(まちづくり・交流人口拡大)事例発表

通訳 李建国

(1)石巻市中心市街地における復興に向けた取組み

／荻谷智大<日・榊街づくりまんぼう>

(2)莫拉克風災友善土地方案:緑社工的思考

／黄彦宜<台・國立暨南國際大學>

／陳昭宏<台・高雄市社區願景培力中心>

／張淑菁<台・高雄市社區願景培力中心>

／蕭淑媛<台・聖功社會福利慈善基金會>

(3)八八風災後來吉部落的產業重建

／黄世輝<台・雲林科技大學>

第3分科会(4201教室)「自助・共助・公助」

(避難者支援と農漁村再建)事例発表

通訳 富里京子

(1)~きずなをつなぐ~石巻復興きずな新聞

／岩元暁子<日・石巻復興きずな新聞舎>

(2)在高齡社區做防災教育—以臺南市北區長榮社區為例

／潘美純<台・長榮大學>／黄肇新<台・長榮大學>

(3)台灣屏東縣 88 水災災後重建的步履

／李宜欣<台・實踐大學>

15:45~全体会(森口記念館)

※各分科会のまとめ発表

司会:劉忠達<石巻専修大学>

第1分科会:中川政治(日) 通訳 黄家琦

第2分科会:松村豪太(日) 通訳 李建国

第3分科会:李宜欣(台) 通訳 富里京子

16:30~閉会あいさつ 廖嘉展<新故郷文教基金會>

通訳 黄家琦

18:30~交流懇親会(石巻河北ビル1階かほくホール)

開会挨拶 阿部勝浩<石巻ビジターズ産業ネットワーク>

歓迎挨拶 阪井聡至<石巻市復興担当審議監>

◇12月13日

石巻市内視察…復興住宅(蛇田地区)、株式会社デ・リー

フデ北上、道の駅「上品の郷」(太田実駅長)他

<主催>日本観光研究学会東北支部、
新故郷文教基金會(台)
<共催>国立暨南國際大學(台)、国立成功大學(台)、
石巻ビジターズ産業ネットワーク
<協力>石巻専修大学、國際サークル友好21
<後援>石巻市、石巻観光協會、石巻地区日中友好協會、
石巻市國際交流協會、三陸河北新報社